



YMI WORLD

「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」

ワイズメンズクラブ国際協会

2026年4月



カメルーンYMCAは、予防教育に重点を置き、特に難民の女性と子どもたちへの支援を重視するRBMプロジェクトの開始を祝いました。

す。



マラリア撲滅のためのRBMパートナーシップ

パートナーの皆さまへ

2026年の世界マラリアデーのテーマを皆さまにお知らせできることを嬉しく思います。

「マラリア撲滅への強い意志：今こそ、私たちはできる。今こそ、私たちはしなければならない。」

世界保健機関（WHO）とマラリア撲滅のためのRBMパートナーシップが策定したこのテーマは、マラリア撲滅に向けた取り組みを加速させるために、マラリア対策コミュニティが一丸となって行動を起こすための共通のスローガンです。世界マラリアデーは毎年4月25日に定められています。このスローガンは、子どもから大臣まで、あらゆる人の声に響き、私たち全員が共有する運動のアイデンティティ「マラリア撲滅は私から始まる」へと結実するように作られています。

このテーマは、密接に関連する二つの真実を反映しています。私たちは、マラリアを根絶できるのです。いつかではなく、私たちの生きている間に。歴史上初めて、根絶を可能にするための手段、科学、そして各国主導のプログラムがすべて揃っています。そして、マラリアは、待ってくれません。今すぐ行動を起こさなければなりません。資金が減り、対策が遅れると、マラリアは、急速に再流行し、多くの命が失われます。私たちは、マラリアによる死を防がなければなりません。

「今こそ、私たちはできる。今こそ、私たちはしなければならない。」希望と緊急性は、切り離せません。可能性は、かつてないほど高まっています。そして、それを逃すことの代償もまた、かつてないほど巨大です。今こそ立ち上がり、マラリア撲滅に向けた大きな取り組みのために団結しましょう。各国で広く普及させるために、そしてすべての人がパートナーと協力して皆で声を一つにするため、世界マラリアデーの前に歌集とツールキットが共有されます。

敬具

マイケル・アデクンレ・チャールズ博士
RBMマラリア撲滅パートナーシップCEO

ダニエル・ンガミジェ博士
世界保健機関 マラリア・顧みられない熱帯病担当部長

本誌の内容は、YMIクラブの熱心な会員および役員の尽力によって成り立っており、心から感謝申し上げます。また、外部からの記事やメッセージを掲載することもあり、その場合は、寄稿者の方々のお名前を明記いたします。

目次

	ページ
マラリア撲滅のためのRBMパートナーシップ	1
IC 2026 ペナン、マレーシア	3
国際会長メッセージ エドワード・K・W・オン 国際会長	5
国際本部ニュース ジョースセ・ヴァルギース 国際書記長	6
インドネシア、バリ島で開催された国際次期理事サミット ジョース・ヴァルギース 国際書記長	7
TOFプロジェクトスポットライト (1) メンタルヘルス大使プログラム ジュネーブYサービスクラブ	9
TOFプロジェクトスポットライト (2) 地域社会の健康増進を通じて慢性疾患と闘う グレータートレドYMCA	10
よりクリーンな地球を目指して団結：Week4Wasteを探る オルガ・ヴォズチコワ Week4Wasteタスクフォース委員長	11
マラリア撲滅キャンペーン キム・ソンピョ ロールバックマラリア国際事業主任	12
カメルーンにおけるマラリア撲滅プロジェクト ユージン・ルシアン・ムビー カメルーンYMCA 同盟総主事代行/CEO	14
アフリカ地域ニュース ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者	15
アジア太平洋地域ニュース 利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者	16
ヨーロッパ地域ニュース ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者	18
インド地域ニュース ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者	19
韓国地域ニュース チョン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者	22
米国地域ニュース メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者	24
チェンマイYMCAでのiGoの機会	24
国連デー ロイズ・マラセリー 国連プロジェクト委員会メンバー	25
認知症を理解する：世界中の高齢者を支援する ドン・メンドーサ シンガポール認知症協会シニアマネージャー	26
キリスト教的強調：主の祈りをもう一度！ ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任	27

編集者から

YMI ワールドに関するご意見やアイデアを共有するには、編集長までご連絡ください。

5月は

リーダーシップ育成とユースの参加促進の強調月間です。

インパクトのあるストーリーを投稿するには、以下をクリックしてください。
締め切り：2026年4月15日

[編集長へ](#)

2026 PENANG



YMIフェスティバル・オブ・ドリームズ 2026年9月10日～13日

IC 2026がマレーシアのペナンに開催地変更

中東の治安情勢を継続的に監視した結果、国際大会委員会は、ドバイで開催予定だった第75回国際大会の開催地変更を勧告しました。この勧告は、代表者立法協議会（国際議会）によって承認されました。

IC 2026は、2026年9月10日から13日まで、マレーシアのペナン州ジョージタウンにあるセント・ジャイルズ・ウェンブリー・ペナン・ホテルで開催されます。

この決定は、すべての参加者にとって安全でアクセスしやすく、成功裡に大会を開催することを保証するとともに、この記念すべき大会にとって刺激的な新たな舞台への扉を開くために下されたものです。

文化と遺産に富んだ開催地

ユネスコ世界遺産に登録されているジョージタウンは、IC 2026にとって他に類を見ない活気に満ちた舞台となります。豊かな文化的多様性、歴史的な建築物、そして世界的に有名なストリートアートで知られるこの街は、伝統と現代生活が見事に融合し、人々の交流と繋がりを育む自然な環境を作り出しています。

歴史的な街並みや植民地時代の建物から、寺院、モスク、活気あふれる地元の市場まで、ペナンはワイズメンズクラブ国際協会を象徴する多様性と精神を体現しています。この街の有名な食文化、職人コミュニティ、そして活気ある公共空間は、大会プログラムを超えて、参加者が探求し、交流し、繋がりを深めるための無数の機会を提供します。

参加者にとっての意味

- 参加者が別途希望しない限り、既存の登録は、すべてペナンで開催される大会に引き継がれます。
- 公式コンベンションホテルでは、全日程の全客室が特別料金の1泊97米ドルでご利用いただけます。ドバイでの宿泊を既に、より高い料金で予約された参加者には、差額が払い戻されます。
- エミレーツ航空との提携航空運賃割引は、適用されなくなりました。既に航空券を予約済みの方は、変更または再予約のオプションについて、航空会社に直接お問い合わせください。
- 早期割引登録の締め切りが2026年5月31日まで延長されました。これは、皆さんの計画のための時間を確保するためです。

今後の展望

ペナンで開催されるIC 2026は、YMIのメンバーと友人たちが、私たちのグローバルな運動の多様性、開放性、そして精神を反映した環境で一堂に会する機会を提供します。YMIフェスティバル・オブ・ドリームズは、この新たな場所で継続され、有意義な体験、学びの共有、そして永続的なつながりを提供します。

ペナンでお会いできるのを楽しみにしています。

ご質問がある場合、特に既存の登録や手配に関してご質問がある場合は、IC 2026のウェブサイトをご確認いただくか、ic2026@ysmen.orgまでお問い合わせください。



YMIフェスティバル・
オブ・ドリームズ
2026年9月10日～13日
夢を共有し、未来を形作る

第75回国際大会
セントジャイルズウェンブリーペナン
ホテルジョージタウン(ペナン)

- 4日間3泊のイベントプログラム
- 大会期間中の食事はすべて含まれています。
- 会場ホテルのツインルーム（朝食付き）1泊97米ドル
- 柔軟なエクスカージョン - さまざまな現地体験から選べます。
- RBMゴルフトーナメント（ペナンゴルフコース） - 2026年9月9日

大会登録

超早割
2026年1月1日～2026年1月31日
CLOSED
475米ドル

早割登録
2026年2月1日～
2026年5月31日
495米ドル

通常登録
2026年6月1日～
2026年7月31日
600米ドル



早期割引登録期間延長：495ドル、
2026年5月31日まで
詳細情報や登録についてはウェブサイトをご
覧ください。

www.ysmen.org/ic2026



フォーカス2.4

メンタルヘルスに関するリマインダー

エドワード・K・W・オン 国際会長／編集長

YMI ワールドの2025年11月号では、フォーカス2.4について言及しました。この行動計画の重要な目標の一つは、高齢者の精神的健康をワイズメンズクラブ国際協会の代表的なプログラムとして確立することです。

会員の高齢化が進むにつれ、シニア会員や元会員の方々の貴重な貢献をますます認識していく必要があります。この取り組みは、各クラブおよび各区に対し、高齢期における継続的な活動、尊厳、そして活力を促進するプログラムを開始または加速させるよう呼びかけるものです。身体活動、精神的な刺激、そして有意義な社会交流を促進することで、シニア会員の方々がYMIを特徴づける親睦と奉仕活動に積極的に参加し続けることを奨励します。

各クラブは、高齢者の心身の健康を促進し、楽しく、参加者の能力に合った、生きがいを感じられるような活動を提供または拡充することが推奨されます。推奨活動の全リストと、各クラブに適した活動の選び方については、2025年11月号をご覧ください。

身体健康と可動性

低負荷の運動は、筋力、バランス感覚、柔軟性を維持するのに役立ちます。ウォーキング、椅子ヨガや太極拳、水中エアロビクス、軽い筋力トレーニング、ガーデニング、ダンスなどが挙げられます。

精神刺激と創造性

頭を活発に保つことは、認知機能の健康と自信を育みます。おすすめの活動としては、パズルやゲーム、カードゲームやボードゲーム、読書や読書会、新しいスキルの習得、創作活動、そして文章を書くことなどが挙げられます。

社会的つながりとコミュニティ

孤独感や孤立感を解消することは、心の健康にとって非常に重要です。そのための機会としては、高齢者センターでの活動（YMCAは最適な場所となるでしょう）、ボランティア活動、定期的な交流会、世代間交流活動、宗教団体や精神的なグループへの参加などが挙げられます。

余暇と楽しみ

リラックスと楽しみは、心身のバランスと幸福感を維持する上で重要な役割を果たします。活動としては、音楽鑑賞、バードウォッチングや自然観察、料理やお菓子作り、系図や家族の歴史の調査、外出や小旅行の企画などが挙げられます。

さまざまな能力に対応した活動の調整

高齢者一人ひとりには個性があり、活動内容は個々のニーズや能力を反映したものであるべきです。これには、運動能力が制限されている方、認知機能に課題がある方（認知症の理解に関する記事を参照してください）、視覚障害のある方なども含まれます。

成功のためのヒント

興味のあることに焦点を当て、無理のない範囲で始め、安全を最優先し、社会的な要素を重視しましょう。最も効果的な活動とは、喜びを喚起し、繋がりを育み、新たな目的意識を与えてくれるものです。何よりも、楽しみながら仲間との絆を深めましょう。

4月は、Week4Waste（W4W）とロールバックマラリア（RBM）の強調月間です。地域社会の清掃活動に力を合わせ、RBMプロジェクトに惜しみなく献金いただき、支援が行き届いていない地域でのマラリア撲滅にご協力ください。皆さまの努力一つひとつが、より健康でより良い世界へと私たちを近づけてくれます。

皆さまにとって、新たな始まり、希望、そして地域社会における前向きな変化に満ちた、喜びあふれるイースターの季節となることを心から願っています。



国際本部ユース

ジョース・ヴァルギース

国際書記長



今日、世界は、前例のない困難に直面しています。中東における戦争と紛争の継続は、世界の地政学的状況を大きく混乱させ、何百万人もの人々の生活と生計に不安をもたらしています。この状況は、私たちのYMIファミリーにも影響を与えています。私たちは、こうした不安の中で生活しているUAEおよび中東全域の会員の皆さまを深く案じており、引き続き皆さまのことを心に留め、祈りを捧げています。

こうした状況を踏まえ、ドバイで開催予定だった国際大会は、深刻な影響を受けています。国際大会委員会は立法協議会と協議を重ねた結果、大会開催地を変更するという困難ながらも必要な決定を下しました。つきましては、大会は、当初予定されていた2026年9月10日から13日の日程で、マレーシアのペナンで開催されることをお知らせいたします。

ペナンYMCAおよびマレーシアのパートナーの皆さまには、財政面や運営面での困難にもかかわらず、短期間でイベント開催にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。国際ユースコンボケーション (IYC) は、2026年9月7日から13日までペナンYMCAペナンで開催者は、国際大会にスムーズに参加いただけます。両イベントの詳細については、追ってご連絡いたします。

YMIにとって4月は特別な意味を持つ月であり、マラリア撲滅キャンペーン (Roll Back Malaria) と「ごみのための週」(Week4Waste) に重点を置いています。2026年4月25日の世界マラリアデーに合わせて、ザンビアとインドで新たなRBMプロジェクトが開始され、世界の健康と地域社会の福祉に対する私たちの取り組みがさらに強化されます。

また、ハイブリッド形式で開催されたバリ島での次期理事サミットの成功裏の終了をご報告できることを嬉しく思います。このサミットは、私たちの運動全体における強い関与と協力関係を示すものでした。今後、エリアおよび区のリーダーは、ヨハン・エルトヴィク次期国際会長が構想した「ブルーミュージック」に触発されたビジョン、すなわちYMIの眠れる巨人を目覚めさせ、生命を力づけるという呼びかけに導かれ、実りある一年に向けて積極的に準備を進めていきます。

国際本部から、各区に対し、会員報告および後期会費の支払いがまだ済んでいない場合は、完了するよう改めてお願い申し上げます。また、すべてのクラブに対し、エドワード・オン国際会長の戦略計画「フォーカス2.4」に沿って、国際プログラムへの献金額を少なくとも20%増額するよう奨励いたします。

最後に、イースターの季節を迎えるにあたり、会員の皆さまに心からの祝福をお送りいたします。この黙想と祝祭の 때가、イエス・キリストの復活を記念するにあたり、新たな平和、希望、そして喜びをもたらしてくれることを願います。



RDEサミット2026：ブルーミュージックの精神を捉える

第7回目の対面での次期理事サミット（2019年以降では通算8回目）が、インドネシアのバリ島スミニャックで開催されました。ワイズメンズクラブ国際協会発祥の地であるオハイオ州トレドでの第1回開催以来、このサミットは、次期の国際執行委員会、地域会長、理事が一堂に会し、リーダーシップを強化し、優先事項を整合させ、共通の目標を設定するための重要な年次フォーラムとなっています。

このサミットは、リーダーたちに刺激を与え、YMIのビジョンに対する共通理解を深め、グローバルな連帯感を育みます。区毎の研修プログラムを補完するこのサミットは、あらゆる分野のリーダーたちを結びつけ、協力と組織の一体性を促進します。

課題と適応

2026年のサミットは、開催直前に中東で戦争が勃発したため、予期せぬ困難に直面しました。国際および地域の指導者たちは、開催の可否を判断するため、複数回にわたって協議を行いました。最終的にサミットは開催され、参加を見送った人々には最大限の配慮がなされました。ハイブリッド形式が導入され、オンラインでの参加も可能となりました。

これらの混乱により、参加者数は、当初予定されていた70名から44名に減少しました。特に被災地域を通過する参加者にとって、移動上の問題も発生し、直前の変更を余儀なくされました。しかしながら、サミットは、こうした状況にもうまく対応し、終始活発な議論が交わされました。

プログラムとリーダーシップの関与

国際執行委員会、3月8日に会合を開き、続いて3月9日には次期地域会長との合同会議を開催し、財務目標と優先事項を調整しました。

3月10日から12日にかけて開催されたこのサミットは、ビクトリアYMCA（オーストラリア）の元CEOであるピーター・バーンズが進行役を務めました。戦略計画と地域開発における彼の専門知識は、貴重な洞察と活力をもたらし、参加者が2026/27年のビジョンを実現するためのリーダーシップと戦略について創造的に考えるよう促しました。3月13日には、任意参加の文化交流会が開催され、参加者同士の非公式な交流や地域探訪の機会が提供されました。

ブルー・ミュージック・ビジョン

注目すべきハイライトの一つは、次期国際会長ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィクによるプレゼンテーションで、彼は、2026/27年の主題「ブルーミュージック」を発表しました。このコンセプトは、創造性、共感、そして仲間意識を通して「行動する善意」を表しており、「人類の永遠の音楽：愛、ユーモア、勇気、そして思いやり」と表現されています。

ブルーミュージックはYMIのグローバルな活動の指針となり、主な活動分野は、以下のとおりです。

- 親睦を深め、奉仕活動のアイデアを生み出すために「変革のためのキャンプファイヤー」を開催する。
- 高齢者の交流と世代間のつながりを通じて孤独感を解消する。
- 環境持続可能性取り組みの推進
- マラリア撲滅キャンペーンなどの国際プログラムを支援する。
- YMCAとの連携強化
- 地域社会への貢献を拡大し、世界中で1,000の取り組みを目標とする。



分科会では、これらのアイデアをより広範な使命との整合性を保ちつつ、各地の実情に合わせてどのように適用できるかについて検討しました。

学習と能力開発

サミットの議題は、リーダーシップ開発、目標設定、業績評価といった実践的かつ戦略的なトピックを幅広く網羅し、次期クラブ会長研究所の手法に関する研修も含まれていました。その他のセッションでは、メンバー獲得、エンゲージメント、定着におけるベストプラクティスの共有に加え、プログラムの効果、コミュニケーション戦略、資金調達、ガバナンス、説明責任にも焦点が当てられました。

すべてのプレゼンテーションはデジタル形式で共有され、参加者はそれぞれの地域での実施を支援するためのリソースに継続的にアクセスすることができました。

フェローシップと結論

サミットは3月12日、「ブルーミュージック・キャンプファイヤーパーティー」で幕を閉じました。夕食を共にした後、参加者たちはビーチに集まり、焚き火を囲んで物語を語り合ったり、歌を歌ったり、思いを巡らせたりしました。この気取らない雰囲気は、創造性、繋がり、そして自由な意見交換を促すブルーミュージックの精神を体現していました。

いくつかの運営上の課題はあったものの、2026年の次期理事サミットは大成功を収めました。次期理事とエリアリーダーたちは、それぞれのクラブに眠る巨人を目覚めさせるためのビジョン、知識、そしてモチベーションを携えて帰路につき、YMIが今後何世代にもわたって活気に満ちた、包摂的で、目的意識の高い運動として成長し続けることを確実なものにしました。



TOFプロジェクトスポットライト

メンタルヘルス大使プログラム

ジュネーブYサービスクラブ

今月、YMIは、世界保健デーを記念して、TOFキャンペーンの一環として2つの取り組みを紹介します。2月号のYMIワールドでも紹介したように、新たに導入されたTOFキャンペーンでは、2026/27年度の対象となる優れたプロジェクトを紹介しています。これらのプロジェクトは、独自性があり、実行可能で、測定可能なインパクトをもたらすように設計されています。これらの紹介は資金調達の呼びかけではなく、TOFのリソースがYMIの価値観をどのように具現化し、世界に真の変化をもたらすかを示すものです。

メンタルヘルス大使プログラム：
孤独に立ち向かい、人生を豊かにし、共に力を合わせれば、より強くなれる！

スポットライトを当てるプロジェクトは、ジュネーブYサービスクラブが提案するメンタルヘルス啓発・対応プログラムです。このプログラムは、YMIクラブ会員や地域リーダーが、地域社会でメンタルヘルスの問題を抱える人々を支援できるよう、オンラインカリキュラムを開発することを目的としています。

このプログラムは、社会的孤立、ストレス、限られたメンタルヘルス資源といった問題に取り組み、地域社会が共感、尊厳、そして実践的な支援をもって対応できるよう支援します。

カリキュラムは、ブレンド型学習プログラムとして設計されており、毎月特定のトピックに焦点を当て、全10モジュールで構成される予定です。これにより、さまざまなニーズに対応できる柔軟な構成が実現します。YMIクラブのメンバーを含む参加者は、メンタルヘルスのニーズを認識して対応する方法、専門家への効果的な紹介方法、そして地域のリーダーと協力して安全で支援的な環境を構築する方法を学びます。また、クラブがメンタルヘルスに関するセッション、半日セミナー、または終日セミナーを実施できるよう、リソースとガイドラインも開発中です。

このプログラムは、YMIが活動拠点を置くケニア、インド、アルメニア、スリランカ、オーストラリアなどの地域を皮切りに、世界規模で実施されます。既に現地の教会やエキュメニカル団体との連携が確立されています。開発は、世界教会協議会との協力のもとで行われ、地域社会や信仰に基づいたアプローチと、エビデンスに基づいたメンタルヘルス実践とのバランスを取る手法を採用しています。

期待される成果：

- YMIクラブのメンバーは、主に信仰に基づく背景を持つ地元のリーダーと協力し、精神的に脆弱な人々を支援する訓練を受ける。
- メンタルヘルスの課題に対処するための意識と自信の向上
- 地域に根ざしたケア対応の強化
- 資格のある精神保健専門家への機能的な紹介経路
- 慈善ではなく仲間意識を、憐れみではなく尊厳を、同情ではなく機会を促進する、包容力と思いやりのあるコミュニティ

このプログラムは、YMIクラブの能力を構築し、地域および世界規模でメンタルヘルスを支援することで、個人に力を与え、コミュニティを強化し、世界中で癒しと回復力を育むとともに、戦略2032に沿い、ヨハン・V・エルトヴィック次期国際会長が提唱した2026/27年のブルーミュージックビジョンを推進します。



TOFプロジェクトスポットライト

地域社会の健康増進を通じて慢性疾患と闘う

グレータートレドYMCA（米国・オハイオ州）

次にスポットライトを当てるプロジェクトは、オハイオ州トレドに新しくオープンしたウェイマン・パーマーYMCAでのグレーター・トレドYMCAが実施している慢性疾患の予防と管理に関する取り組みです。貧困率の高い地域を対象としたこのプログラムは、糖尿病、高血圧、肥満、心臓病、その他の慢性疾患に対し、エビデンスに基づいた介入を提供し、生活習慣教育、健康診断、地域社会の支援を組み合わせることで、健康格差を縮小し、健康状態を強化することを目指しています。

この3年間の取り組みは、予防医療へのアクセスが限られている約300人の恵まれない人々にとって有益となることが期待されています。1年目は、地域社会との連携、基礎評価、スクリーニング、パイロットプログラムに重点を置き、医療機関とのパートナーシップを構築します。2年目には、慢性疾患予防、血圧、糖尿病、体重管理、運動、栄養に関するワークショップなど、提供内容を拡大し、YMCAと地域コミュニティの両方で実施します。3年目には、評価、プログラムの改善、持続可能性に重点を置き、生体指標の改善、健康的な行動、プログラム継続率、地域からのフィードバックを追跡します。

本プロジェクトは、米国各地から強力な支援を受けています。さらに、UToledo Health、Mercy Health、ProMedica、高齢者福祉局、メディケイド管理医療プラン、そしてTOF推進助成期間後もスクリーニング、紹介、社会福祉サービスを支援する常駐のCareNetコミュニティヘルスワーカーとのパートナーシップにより、持続可能性が確保されています。

期待される成果：

- 健康指標の改善（血圧、HbA1c、BMI）
- 慢性疾患の予防と管理に対する意識の向上
- 健康リテラシーと自己管理能力の向上
- 地域社会の健康と慢性疾患予防のための拡張可能なモデル
- 個人のエンパワーメントと、より健康で回復力のあるコミュニティ

この取り組みを通して、ウェイマン・パーマーYMCAは地域社会の健康増進の模範となり、住民が自らの健康管理を担えるよう支援し、公式プロジェクト期間をはるかに超えて持続する、予防とケアの文化を育むことができるでしょう。



ウェイマン・パーマーYMCA



よりクリーンな地球のために団結 Week4Wasteを探求する

オルガ・ヴォズチコワ Week4Wasteタスクフォース委員長

年2回の清掃活動

ワイズメンズクラブ国際協会は、Week4Wasteプロジェクトを通して、意義深い環境保全の伝統を築き上げてきました。それは、年に少なくとも2回、地域清掃活動を実施することです。これらの活動は、9月の世界クリーンアップデーと4月のアースデイという2つの重要な取り組みに合わせて行われます。Week4Wasteタスクフォースのメンバーは、毎年4月に開催されるこのキャンペーンに誰もが参加するよう呼びかけています。

地域に根ざした取り組みが世界に影響を与える

世界中のYMI加盟クラブは、この運動の中で推進されている国際的な取り組みに沿って活動しています。アースデイには、クラブは環境保護に特に力を入れ、汚染の削減、廃棄物管理の改善、持続可能な取り組みへの意識向上に重点を置くよう奨励されています。地域清掃活動をこれらのグローバルキャンペーンと連携させることで、クラブは、環境保全と地域社会への貢献という、より広範な使命に貢献しています。

地域社会との連携

清掃活動の日には、クラブ会員、家族、地域住民が集まります。ボランティアたちは、公園や川岸、公共スペースに集まり、ゴミ拾いやリサイクル品の分別を行い、周囲の環境を美しくします。

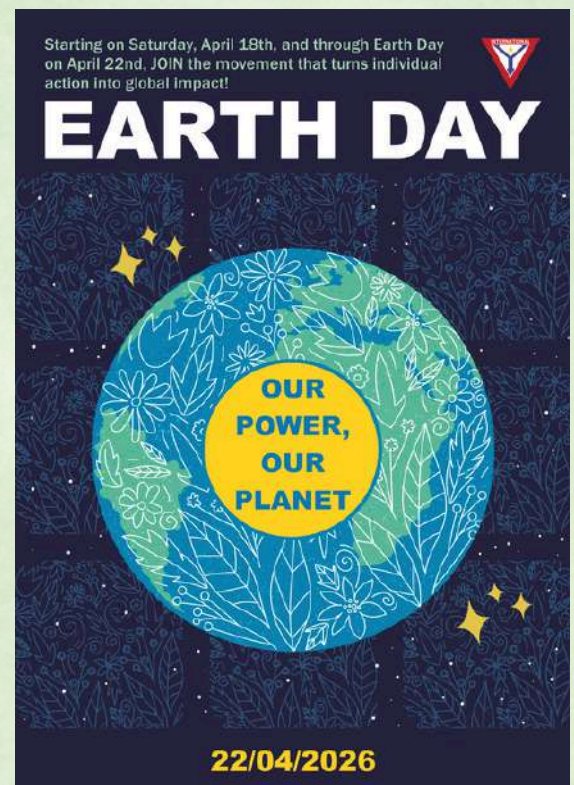
これらのイベントは、単に廃棄物を除去するだけにとどまりません。以下のような効果があります。

- 環境意識を高める
- 市民としての責任感を育む
- 地域社会とのつながりを強化する

参加者は、この経験がやりがいがあり、刺激的であると感じ、集団行動がいかにより具体的な変化をもたらすことができるかを実感することが多いです。

持続可能な未来の構築

W4Wは、YMIの中核的価値観を反映しており、地域社会への奉仕、環境保護、そして国際協力に重点を置いています。アースデイの活動への参加を通して、各クラブは、地域レベルでの活動が、よりクリーンで健康的な地球を目指す世界的なビジョンをどのように支えることができるかを実証しています。彼らの取り組みは、明確なメッセージを発信しています。地域社会が共通の目的を持って団結すれば、たとえ小さな行動であっても、永続的な世界的影響を与えることができるのです。





マラリア撲滅キャンペーン

キム・ソンピョ RBM国際事業主任

4月はYMIのRBM強調月間であることを忘れずに、4月25日の世界マラリアデーを覚えましょやう。

マラリアは世界で最も致死率の高い感染症の一つです。2024年には世界中で推定2億8,200万件の新規マラリア症例が発生し、約61万人が死亡しました。残念ながら、資金不足、薬剤耐性の問題、気候変動の影響、医療制度の混乱など、さまざまな要因により症例数が増加傾向にあり、根絶に向けた進展を阻害しています。

マラリアによる死亡者の95%はアフリカで発生しています。これは蚊の個体数や感染力の高さによるものではなく、貧困や医療インフラの不足といった健康格差に起因する構造的な問題によるものです。マラリアの治療と予防への取り組みは、単に感染症を治すだけにとどまらず、社会経済的な障壁として克服しなければならない人道的な課題なのです。

マラリアは致命的な病気ですが、迅速な診断と適切な治療によって完全に治癒可能です。予防のためには、蚊に刺されないようにすることが不可欠です。殺虫剤処理済み蚊帳（ITN）の使用や屋内残効性殺虫剤散布（IRS）は、マラリアによる死亡率を大幅に減少させる効果的な方法です。

2030年までの主要目標

YMIは、認知度の向上、プログラムの影響力強化、そして資金拠出を通じて、2030年までにマラリアを根絶するという世界的な目標を支援することを目指しています。プログラム開始以来、YMIは、マラリア根絶活動に100万スイスフラン以上を拠出してきました。

RBM 昨日と今日

YMIは、2008年にデンマークで開催された国際大会において、蚊帳の配布と啓発活動のための資金調達を当初の目標として、正式に世界的なマラリア撲滅運動に参画しました。翌年には、WHO、ユニセフ、世界銀行が共同設立したマラリア対策の調整を目的とした世界的な枠組みであるRBMパートナーシップの正式なパートナーとなりました。

2010年から2019年にかけて、YMIは国際赤十字・赤新月社（IFRC）を通じてシエラレオネ、トーゴ、タンザニアのマラリア対策プログラムを支援し、社会動員、行動変容、殺虫剤処理済み蚊帳の適切な使用促進に重点を置きました。2020年には、YMIは、世界YMCA同盟およびグローバルファンドと提携し、英国からのマッチングファンドを活用して地域社会の参加と意識向上を図りました。

2025年に開始された新たなパートナーシップモデルは、YMIクラブ、YMCA、保健当局、RBMパートナーとの連携を通じて、マラリア流行国において直接的かつ測定可能な影響を与えることを可能にします。

今後5年間で、36万スイスフランがマラリア啓発活動、蚊帳配布、ワクチン接種活動を支援し、説明責任を確保するために毎年モニタリングが行われます。

社会動員と教育

地元のYMCAや保健省と協力し、マラリア予防に関する家庭教育を行い、蚊帳の適切な使用など、行動変容を促しています。

ワクチン接種と医療啓発活動

このキャンペーンの最新段階には、インド、ケニア、カメルーン、ザンビアなどの国々におけるワクチン普及活動の支援や、最前線で働く医療従事者の動員が含まれます。

擁護活動

YMIと世界YMCA同盟は、マラリア撲滅のための地域社会への参加や啓発活動を主導する若者を支援しています。

YMIのRBMキャンペーンに参加しましょう！

資金調達ツール

募金箱：クラブは、会合や地域のイベントにRBMの募金箱を設置します。デンマーク区事務所は、無料で印刷できる募金箱のテンプレートを作成しました。こちらからダウンロードしてご利用いただけます。

直接寄付：クラブは、国際協会ウェブサイトの献金ページまたは電信送金を通じて、ジュネーブの国際本部に直接資金を献金することができます。ただし、通常は、クラブはプログラムへの寄付金を区会計に提出し、区会計が5月に国際本部に送金します。

主要な活動期間

- 4月は重点月間：YMIの年間計画の中で、マラリア撲滅に焦点を当てます。
- 世界マラリアデー（4月25日）：地元のクラブが、地元のYMCAと協力して、予防接種キャンペーンや蚊帳配布式典などの共同プロジェクトを実施します。

各地での取り組み

流行地域（インド、ケニア、カメルーン、ザンビアなど）の地元クラブは、以下のような実践的な活動を行っています。

- 蚊帳支援：長持ちする殺虫剤処理済み蚊帳（LLIN）の配布と正しい設置方法について、各家庭を支援します。
- 社会動員：行動変容を促すコミュニケーションを通じて近隣住民に正しい蚊帳の使い方を教育し、発熱時の早期治療を促します。
- 清掃プログラム：蚊の繁殖場所を減らすため、溜まった水やゴミの除去など、地域社会への奉仕活動を企画します。
- 資金調達活動：RBMプログラムを支援するため、地域大会のイベントでTシャツを販売するなど、地域レベルの取り組みを実施します。





カメルーンにおけるマラリア 撲滅プロジェクト 2026年1月～3月

2024年に導入された新たなパートナーシップの枠組みの下で最初のプロジェクトとして開始されたカメルーンのRBMへの取り組みは、初期段階で大きな進展を遂げています。

準備作業：

- 地域公衆衛生局とのパートナーシップを確立し、ヤウンデの難民におけるマラリアに関する意識調査研究プロトコルの倫理承認を得ました。
- プロジェクト活動を支援するため、14名のボランティア（医療従事者4名と難民女性10名）を募集しました。

主な活動内容：

- 研修セミナー（2026年2月5日）：13名の参加者が、社会行動変容、地域社会動員およびマラリア予防の重要なメッセージ（長持ちする殺虫剤処理済み蚊帳の使用、ワクチン接種、早期治療、妊婦への予防的ケアなど）について研修を受けました。
- 公式開始会議（2026年2月12日）：国および地方自治体の関係者20名が出席。関係当局、地域リーダー、技術パートナーに対し、プロジェクトの目的、期待される成果、地域支援のための戦略が提示されました。

次のステップ：

- キャンペーン開始前にデータ収集を行い、難民集団における基礎的な知識、態度、行動（KAP）を把握します。
- 地域社会を巻き込み、前向きな行動変容を促進するため、2026年4月12日にマラリア啓発キャンペーンを開始します。



アフリカ地域ニュース

ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者



キツイのワイズメンが、喜びあふれる親睦の中で新拠点と創立1周年を祝う

2026年3月7日、キツイYサービスクラブは、会員のルース・ムトニヤの自宅で楽しい親睦会を開催しました。ルースは、新居に引っ越しただけでなく、息子のプリンス・ニラン・ジャバリの1歳の誕生日も祝っていました。家庭訪問は、YMIの温かさや愛情を会員の家族に伝える有意義な方法であり、クラブ会長のムウシャ・ムウインジは、招待客の多くに私たちの活動について話す機会を積極的に活用しました。

キツイYサービスクラブは、意義のある地域奉仕プロジェクトの実施、戦略的なパートナーシップの構築、そして活動に楽しさと親睦を取り入れることによって、その存在意義を高め続けています。



ナイロビワイズユースクラブ、クウェトゥ平和ホームの少年たちに刺激を与える

2026年3月22日、ナイロビワイズユースクラブは、「タッチ・オブ・ホープ」イニシアチブと協力し、ナイロビのマダラカにあるクウェトゥ・ホーム・オブ・ピースを訪問しました。ホーム・オブ・ピースは、ケニア全土のストリートチルドレンの救出、更生、社会復帰を支援する非営利団体で、現在5歳から19歳までの22人の少年を受け入れています。

YMIの若者たちは、ゲーム、歌、ダンスなどの楽しい交流活動を通して少年たちと親睦を深めた後、自己認識、否定的なレッテルを克服すること、仲間からのプレッシャーに対処することに焦点を当てたカウンセリングセッションへと移りました。

インタラクティブなメンタリングセッションでは、さまざまな年齢層の子どもたちと卒業生が集まり、プログラムを通して得た経験や成長について語り合いました。

アジア太平洋地域ニュース

利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者

南東アジア区

マレーシアのシルバー・ステートYサービスクラブのメンバーは、3月の地域奉仕活動の一環として、キャンピング・ガードにある身体的・精神的障がいを持つ子供たちのための児童養護施設を訪問し、入居者たちに支援、ケア、そして温かい交流を提供しました。



チェンマイYMCAと協力し、チェンマイワイズメンズクラブは、2月27日にメーカー運河フラワーフェスティバルに参加しました。この取り組みは、運河の水質回復と改善に向けた分野横断的な協力を促進することを目的としていました。イベントのハイライトは、美しく装飾された花で飾られたボートが運河を航行したことと、高齢者ボランティアグループによるパフォーマンスでした。このイベントは大成功を収め、多くの人々が参加しました。最も重要なことは、このイベントが県知事の支持を得たことです。知事は、様々な政府機関の統合的な取り組みを通じて水質改善への継続的な支援を約束しました。



2026年2月28日、香港部は、春の晩餐会を開催しました。このイベントは、大成功を収め、会員とゲストが集まり、豪華な食事を楽しみ、近況を報告し合い、今後の計画について話し合う素晴らしい機会となり、クラブ内の絆を深めることができました。



この夜は、楽しいインタラクティブゲームや抽選会など盛りだくさんの内容で、活気あふれる雰囲気の中で、参加者全員が来年の集まりを心待ちにしていました。また、5名の新会員が入会し、大成功を収めました。広州YMCAと広州ワイズメンズクラブの寛大なご支援に心より感謝申し上げます。

香港ワイズメンズクラブは、3月に香港クラブで開催された昼食会において、香港中華YMCAの総主事であるジョニー・ウォンを迎えられたことを光栄に思います。ウォンは、YMCAの歴史と発展についての見識を共有してくれました。



香港尖沙咀ワイズメンズクラブの創立45周年、おめでとうございます



東日本区

2026年2月19日から3月2日まで、東日本区は、ハイデラバードワイズメンズクラブおよびグレーターハイデラバードYMCAの協力のもと、ハイデラバードで「インド体験交流プログラム」を開催しました。



大学生6名、高校生1名、そして東京多摩スマイルワイズメンズクラブの為我井輝忠さんが、10日間のプログラムに参加し、文化史跡、大学、孤児院、IT企業、福祉施設などを訪問しました。参加者は、インド人家庭にホームステイし、現地の学生たちと交流しました。学生たちのコンピュータスキルや明確な将来への抱負は、参加者たちを感銘させました。

西日本区

1月25日、西日本区・中西部では新年会が「今年はド派手にいくぞ！」をテーマに開催されました。このイベントでは、ネパール出身の留学生、ドン・ラクパ君が大阪西ワイズメンズクラブの会員として正式に入会しました。



2020年から熊本YMCA学院で2年間学んだドン・ラクパ君は、在学中、熊本ジェーンズワイズメンズクラブの例会に積極的に参加しました。卒業後、大阪で就職した彼は、2025年10月にワイズへの正式加入を希望しました。今回の加入は、新たな章の幕開けとなり、西日本区は、彼がネパールと日本の架け橋となり、その経験、献身、そして異文化理解を通して、YMIとYMCAに貢献してくれることを期待しています。

台湾区



台湾区中部は、南投YMCAと協力し、恵まれない高齢者200名への食事配達サービスを後援しました。



台湾区が主催したRBM資金調達のための年次ゴルフ大会

エレバンYサービスクラブ会員入会式



2026年3月6日、デンマーク区は、エレバンYサービスクラブのオンライン入会式を開催しました。このセッションでは、YMIの使命と歴史を紹介するとともに、クラブの基盤を築き、地域社会におけるその目的を明確にするために必要な指導と励ましを提供しました。

会議は、区理事のクリステン・ヘルムズとヨーロッパYMCA同盟総主事のヴァルダン・ハンバルズミャンによる歓迎の挨拶で始まり、続いてメンバーによる簡単な自己紹介が行われました。

長年にわたりYMCAに所属している会員や、ジェネレーション・ネクスト奨学金の受給者を含むメンバーは、奉仕活動への共通の志のもとに集まりました。このクラブは、ジェネレーション・ネクストの卒業生のための同窓会ネットワークとしても機能します。

元国際会長であるウルリク・ラウリドセンとジェイコブ・クリステンセンは、YMIの歴史とクラブ運営の成功のための指針についての洞察を述べました。彼らは、孤児院支援、環境保護活動、高齢者介護などのプロジェクトから具体的な事例を紹介しました。就任式は、次期区理事に選出されたソーレン・ウィンター・ニールセンが今後のビジョンを概説して締めくくられました。ヴァルダン・ハンバルズミャンは、最後に、「このクラブに大きな期待を寄せています。皆さんのリーダーシップのもと、より多くの若者をワイズメンの仲間として迎え入れ、地域のニーズに応えるプログラムの開発を継続していきます」と述べました。

世代をつなぐ：オーラムクラブ会員との楽しい夕べ



2026年2月、オーラムワイズメンズクラブは、地元のYMCA児童・青少年クラブ2団体と共同で、2回目の世代間交流会を開催しました。メンバーは、ダーツ、カロム、レース編み、木工旋盤、ケーキ作りなどのアクティビティを企画し、11歳から14歳の若い参加者と、50歳から70歳年上のワイズメンズクラブのホストとの交流を促進しました。

このイベントは、YMCAのプログラムについてより深く理解してもらい、単に資金援助を行うだけでなく、参加者やボランティアの人々と、遊び心あふれる実践的な環境で交流を深めることを目的として企画されました。イベントは大成功を収め、ボランティアの人々も参加者も、来年も開催してほしいと要望しました。中には、将来オーラムクラブのメンバーになる若い参加者もいるかもしれません！



インド地域ニュース

ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者

中央トラヴァンコール区

中央トラバンコール区でC-TRAINが発足

中央トラバンコール区は、ワイズ運動のための熟練トレーナーを育成する取り組みであるC-TRAIN（中央トラバンコール区イノベーション・リーダーシップ育成アカデミー）を発足しました。2月4日にインドを訪問したヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長によって開所式が行われたこのアカデミーは、3月21日と22日にJCヒルズで2日間の合宿研修も開催し、他の区からのメンバーを含む35名の参加者を地域トレーナーとして認定しました。



地域のワイズメネットプロジェクト - MISSY 2.0

MISSY 2.0の一環として、マイラプラにあるS.H.教員養成研究所の学生を対象とした月経衛生と啓発イベントが開催されました。このプログラムはラジェシュ・Vによって開会され、チトラ・ヴィノードが議長を務めました。プシュパラタ・ラダクリシュナンが月経カップを含む衛生キットを配布し、レシュマ・カンナンが啓発セッションを主導しました。

中東区

区全体で奉仕と思いやりを称える

ワイズメネットは、国際女性デーを記念して、がん患者への経済的支援を行うとともに、低所得世帯向けに無料の眼科検診キャンプを開催しました。



同時に、YMIクラブは献身的な奉仕活動を継続しました。ドバイワイズメンズクラブは、恵まれない労働者やベドウィン家族に食料品キットを配布しました。イーストコースト・フジャイラワイズメンズクラブは、環境保護を促進するためにビーチ清掃活動を主導しました。アル・アインワイズメンズクラブは、労働者キャンプやベドウィンキャンプ向けにイフタル（断食明けの食事）の配布を行いました。

インド中西区

MWIRスポーツ大会：親睦とスポーツマンシップの祭典

インド中西区スポーツ大会は、親睦、スポーツマンシップ、そして健康的な生活の精神を称える祭典となりました。このイベントには、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長、国際書記長のジョース・ヴァルギース、地域会長のバブ・ジョージ、次々期国際会長のV・S・ラダクリシュナン、地域書記のジョセフ・ヴァルゲーゼなどが出席し、盛況のうちに幕を閉じました。クリアチャン理事と献身的なチームによって綿密に企画されたこの大会は、参加者全員にとってスムーズで思い出に残る体験となりました。





EF献金者を表彰

インド中西区は、オーナーロールやポール・ウィリアム・アレクサンダー・フェローを含むEFへの献金者を、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク次期国際会長、A・シャナヴァスカン直前国際会長、V・S・ラダクリシュナン次期国際会長、バブ・ジョージ地域会長などの出席のもと、特別な式典で誇りをもって表彰しました。

インド北、東、北東区

献血キャンペーン - カタックYMCA

カタックYMCAは、3月14日にカタック・ミレニアムワイズメンズクラブと協力し、献血キャンペーンを成功裏に開催しました。このイベントには会員とボランティアが熱心に参加し、集められた血液はすべてSCB血液銀行に引き渡され、人命救助という崇高な活動に貢献しました。



南中央インド区



スネハ・サダンで奉仕活動を通して女性を称える

バンガロール・ピーニャワイズメンズクラブは、国際女性デーを記念し、区理事のバンガロール・スネハ・サダンへの公式訪問に合わせて、同施設の高齢者と児童養護施設の入居者70名に奉仕活動を行いました。昼食と月々の食料品の配布を含むこのプログラムには、区理事のマシュー・クリアン、部長のアベイ・ジョンおよびそれぞれのチームメンバーが出席しました。

女子学生を支援する

ヴィルドゥナガルワイズメネットクラブとヴィルドゥナガルワイズメンズクラブは、幼稚園年少から大学レベルまでの女子生徒を対象としたバラタナティヤム競技会「ナティヤンジャリ」の第20回大会を共同で開催しました。南タミル・ナードゥ州レベルのこの大会には、様々な部門で合計245名の子どもたちが参加しました。参加者全員に賞状とメダルが授与され、入賞者には賞品が贈られました。このイベントはIDHAYAMの支援を受けて開催されました。



南インド区



サティヤマンガラムにおける女性への敬意と地域社会への貢献

サティヤマンガラム・シェローズワイズウイメンズクラブは、コマラパライヤムのパンチャヤット・ユニオン中学校の生徒84名のために食事を提供しました。



区理事の公式訪問中、サティヤマンガラムのワイズメン、ワイズメネット、コメントは、様々な奉仕活動を実施しました。これには、ユニバーサル・ピース・ファウンデーションへの支援、タンダンパライヤムの修道女たちへの食料品の配布、教育支援などが含まれます。また、この会合では国際女性デーも祝われ、ワイズウイメンとワイズメネットの貢献が称えられました。

結婚支援イニシアチブがまたもや成功を収める

神の恵みと指導者や支援者の支援のおかげで、コインバトルワイズメンズクラブは、ふさわしい6組のカップルの結婚式を無事執り行うことができました。これは、この崇高な取り組みが6年連続で行われたことを意味し、支援したカップルの総数は56組となりました。新婚生活を始めるにあたり、カップルには基本的な生活必需品が提供されました。



この式典には、バブ・ジョージ地域会長、トーマス・V・ジョン元地域会長、M・アヤムトゥ次期国際議員、K・M・カイラサム元区理事、V・A・N・バブ区理事をはじめとするリーダーたちの出席と激励によって特別な意義が加わり、式典は華やかなものとなりました。

南西インド区



国際女性デーを祝う

第6部は、コッラムYWCAと共同で国際女性デーの祝賀行事を行いました。式典は、コッラム地区長官のデヴィダス・N氏（IAS）によって開始され、同氏は、記念として苗木を植樹しました。部長のメアリー・テレサが議長を務め、女性のエンパワーメントと地域社会への貢献の重要性を強調しました。

TOFを祝う

南西インド区、2月28日にトリバンドラム・プレスクラブホールで断食のとき（TOF）を記念する行事を行いました。区理事のトーマス・K・ジョージが開会式を司り、様々な宗教の指導者による宗教間サミットが開催され、普遍的な兄弟愛と団結のメッセージが強調されました。



西インド区



区理事が学生たちの間でYMIへの関心を高める

区理事のフランシス・P・Sは、既に活発なユースクラブが存在するパラッカドのリードカレッジを訪れ、360名以上のMBA学生にYMI運動を紹介した。このセッションは熱心に迎えられ、参加者の多くがクラブへの入会に関心を示しました。

女性の功績を称える

新たに結成されたクートゥパランバ・シェローズワイズウイメンズクラブとパヌール・クイーンズワイズウイメンズクラブは、国際女性デーを合同で祝い、社会における女性の強さ、功績、貢献を強調するプログラムを実施しました。この合同祝賀会は、両クラブ間の友好関係を育むだけでなく、若い会員たちの中で女性のエンパワーメントとリーダーシップの精神を強化することにもつながりました。



高齢者介護

クートゥパランバワイズメンズクラブのメンバーは、スネハニケタン老人ホームの入居者と有意義な時間を過ごし、思いやりを込めて様々な小さな贈り物や記念品を贈呈しました。

韓国地域



地域事業主任、地域事業委員会トレーニング

2026年2月7日（土）、韓国地域は、デジョンYMCAにて地域事業主任および地域事業委員会の研修会を開催しました。研修では、事業主任マニュアルと、国際本部方針目標をクラブに効果的に伝える方法に重点が置かれました。また、年間会員目標達成のために、クラブ内での募金活動の重要性が強調されました。

2025/26年度の目標額は一人当たり約17スイスフランで、様々な国際プログラム（ASF、EF、BF、RBM、TOF、HTW、環境）に分配される予定です。各区およびクラブは、教育やベストプラクティスの共有を通じて意識向上を図るよう奨励されました。

次期理事サミットのオンライン参加



韓国地域は、当初インドネシアのバリ島で開催予定だったRDEサミットに出席予定だった13名の代表者が中東紛争のため予定を変更したことを受け、3月12日から14日にかけて韓国のチョンジュ市で独自のRDEサミットを開催しました。

国際本部の支援により、参加者はZoomを通じてバリサミットにリアルタイムで参加することができ、韓国地域からは11名のメンバーが修了証書を受け取りました。

韓国では、元国際会長と元地域会長が講師を務め、国際本部の期待事項とクラブ設立に関するセッション（キム・サンチェ元国際会長）、ヨハン・エルトヴィク次期国際会長のブルーミュージック構想の概要と実施計画に関するセッション（ハン・イルウク元地域会長）、次期理事の役割と責任に関するセッション（ムン・サンボン元国際会長）を実施しました。

韓国地域のメンバーが国際次期理事サミットに直接参加できなかったことは残念でしたが、これらの代替措置により、継続的な参加が確保され、貴重な学習機会が提供されました。

韓国プルイルギョン区

ジンジュハーモニークラブ設立式典

3月16日、22名の会員からなるジンジュハーモニーウイズウィメンズクラブが設立式典を開催しました。パク・チャサン地域会長が祝辞を述べ、イム・ヒョンスク会長が「すべての人に奉仕を、最後まで共にいるハーモニー」という感動的なスローガンを掲げ、クラブを正式に発足させました。



ジンジュハーモニークラブの設立は、ジンジュチョクソククラブ会長のチョン・ボソク、元区理事のチョン・ドクン、元クラブ会長のチョン・ウィファンらが2025年10月以来、献身的な努力を重ねてきた結果であり、彼らの尽力によってこのビジョンが実現しました。

韓国ジョンナム区

成長を祝う

2026年2月24日、グァンヤンビジョンウイズウィメンズクラブは、今年新たに加入した10人目の会員を迎える入会式を開催しました。会員数は60名で、おそらく最大規模の女性クラブです。クラブの成長は、理事、直前理事、部長からの寛大な寄付によって支えられており、それぞれから100万ウォンが寄付されました。





ヨスジンナムクラブが三恵院で若者たちと旧正月を祝う

12月に開催した子ども向けイベントが大成功を収めたヨスジンナムワイズメンズクラブは、2月の月例会でヨス三恵院を訪れ、子どもたちや若者たちと旧正月を祝いました。会員や地域住民が餅スープなどの祝祭料理を囲み、新年の挨拶やささやかな贈り物、心からの願いを交わす、温かく楽しいひとときとなりました。最後はユンノリや親睦卓球大会など、賑やかなアクティビティで締めくくられ、笑い一体感があふれるひとときとなりました。

韓国インチョン区

環境浄化キャンペーン：「みんなの海、共に守る海」：インチョンボランティアの活動

インチョン区（リー・カンギン理事）は、西海の干潟をユネスコ世界自然遺産に登録するためのキャンペーンに地元の市民団体とともに参加しています。希少な動植物が生息する168の島々があるこの手つかずの干潟は、新たなブルーカーボンの形態としても注目されており、気候危機への対策において重要な資源となる。インチョンボランティア隊は、「みんなの海、一緒に海を守ろう」プログラムの一環として、3月21日にソレポグ港で最初の大規模清掃活動に25名が参加しました。インチョンボランティア隊は、海洋廃棄物の収集、干潟の維持管理、漁具からのゴミの削減に重点を置いた活動を継続していきます。



韓国西区

女性と家族を祝う

韓国西区は3月7日、デジョンで区メネット会議を開催しました。家族志向の会員が特に多く参加し、多くのYMI指導者と会員が集まり、親睦を深め、祝賀会を行いました。



教会への寄付

2月27日、チュンジュワイズメンズクラブは、セヌリ洗礼教会にピアノを寄贈しました。クラブ関係者は贈呈式に出席し、ピアノを演奏しながら親睦を深めました。



デジョン部会議

デジョン部のデジョンハンバット、ジュンド、デジョンイマニュエル、ハンバットサラン、ニューデジョン、デジョンジョウン、デジョンセブン、デジョンシオン、デジョンSASAの9つのクラブが、ユ・ヨンイ部長の指導の下、2月5日にデジョンで開催された合同月例会に出席しました。この会合は、会員が親睦と奉仕への決意を新たにする特別な機会となりました。



米国地域ニュース

メラニー・カアイフェ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者

米国地域総会

米国地域総会は2月15日（日）にZoomで開催され、地域のリーダー、区評議員、地域事業主任が一堂に会し、実りある有意義な会合となりました。地域会長のジョセフ・カマンジャラが会議を主導し、参加者を将来を見据えた充実した議題へと導きました。主なハイライトは、2026年9月にドバイで開催される国際大会の最新情報で、リーダーたちは地域全体からの積極的な代表参加を促しました。3月の地域奉仕デーの計画も検討され、全国の会員が地域社会で奉仕できる有意義な機会が強調されました。2月の重点的な取り組みであるTOFについても議論され、進行中のプロジェクトや、この重要な取り組みへの支援を構築するための努力が話し合われました。

その他の議論では、区の合併案やYMCAアライアンスニュースレターの最新情報などが話し合われました。また、次期地域会長に選出されたダン・エバリーが、新任に向けての思慮深い考えを述べました。連休にもかかわらず、会議には多くの参加者が集まり、協力的な対話と戦略的な計画策定が行われました。次回の総会は、6月14日に年度末会議として開催されます。

今後、2027年地域大会企画委員会の委員が発表され、隔年開催のこのイベントに向けた準備が本格的に開始される予定です。



iGoの機会 YMCAチェンマイで

応募受付を開始しました！

地域奉仕活動、青少年育成プログラム、国際協力といった分野で実践的な経験を積むことができます。

[こちらをクリックして応募してください](#)

タイ、チェンマイ

成長しながら社会に貢献できるチャンスを掴もう
— 他者に奉仕し、自らを力づける。

YMCA、YMIクラブ（ワイズユースクラブおよびワイズメネットクラブを含む）に所属する18歳から29歳までの応募者は、2026年4月20日まで応募できます。

参加する理由とは？

- 積極的に参加しよう：新しい文化や言語に触れ、視野を広げ、知識豊富で積極的なグローバル市民になろう。
- つながる：新しい人々と出会い、生涯続く友情を育み、仕事や社会的なネットワークを強化しましょう。
- スキルアップ：仕事と生活に必要なスキルを身につけ、履歴書を充実させ、世界中の雇用主にとってより魅力的な候補者になりましょう。
- エンパワーメント：自信、リーダーシップスキル、そしてより良い世界のために行動する能力を育成します。



国連デー

国連プロジェクト委員会メンバーのロイズ・マラセリーが特定し
要約した4月の主要な国連記念日



ロイズ・マラセリー
国連プロジェクト委員会メンバー

地雷に関する国際啓発・地雷対策支援デー

地雷や不発弾の探知、除去、安全な管理を行うための国家能力を、影響を受ける国々で継続的に開発・強化していく必要性を強調します。2026年のテーマ「安全な未来はここから始まる」は、人命を守り、地域社会を復興させ、すべての人にとってより安全な未来を築くための、協調的な国際的行動の重要性を強調します。

4月4日

開発と平和のための国際スポーツデー

スポーツは、ますます分断が進む世界において、つながり、包摂性そして平和を育む独自の力を持つ、社会変革の強力な触媒であることを強調します。2026年のテーマは「スポーツ：架け橋を築き、障壁を打ち破る」です。

4月6日

世界保健デー

世界保健機関（WHO）の設立記念日と、人、動物、環境の健康を結びつける「ワンヘルス」アプローチの提唱を祝います。2026年のテーマ「共に健康を。科学と共に立ち上がろう」は、世界の幸福のために科学を推進するものです。

4月7日

国際地球の日（アースデイ）

森林破壊、土地利用の変化、集約農業、違法な野生生物取引といった人間活動による圧力が生物多様性の喪失を加速させている現状を踏まえ、地球環境の保護と持続可能な開発の促進の重要性を訴えます。2026年のテーマ「私たちの力、私たちの地球」は、地域主導の環境活動と再生可能エネルギーへの移行を強調します。

4月22日

国際平和のための多国間主義と外交の日

地球規模の課題に対処し、平和、安全保障、持続可能な開発を促進する上で、国際協力と対話が重要であることを強調します。

4月24日

世界マラリアデー

マラリア撲滅に近づき、あるいは既に達成している国々の功績を称え、マラリアの予防、抑制、そして最終的な撲滅に向けた持続的な投資と共同行動の必要性を強調します。2026年のテーマ「より公平な世界を目指し、マラリアとの闘いを加速する」は、脆弱な立場にある人々への支援と健康格差の解消を推進することの重要性を強調しています。

4月25日

世界労働安全衛生デー

安全で健康的かつ適切な労働環境の構築の重要性を促進し、労働災害、負傷、疾病の予防を基本的人権および共通の責任として世界的に認識を高めることを提唱しています。2026年のテーマ「イノベーションとデジタル変革を通じてより安全な職場環境を構築する」では、テクノロジーと新しいアプローチがいかに安全性を向上させ、世界中の労働者を保護できるかを強調しています。

4月28日

認知症を理解する： 世界中の高齢者を支援する

ドン・メンドーサ シンガポール認知症協会シニアマネージャー

認知症は世界的な課題であり、何百万人もの人々とその家族に影響を与えています。世界保健機関（WHO）によると、世界中で約5,500万人が認知症を患っており、毎年約1,000万人が新たに発症しています（WHO、2023年）。認知症は加齢に伴う正常な現象ではありませんが、記憶障害、混乱、日常生活動作の困難といった初期症状は、しばしば軽微で、見過ごされやすいものです。



認知症の診断は一つとして同じものではありません。アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症は最も一般的なタイプですが、100種類以上の疾患が同様の症状を引き起こす可能性があります。そのため、正確な診断と効果的なケアは複雑です。特に60歳未満で発症する若年性認知症の場合、家族、介護者、地域社会は感情的、経済的、社会的な課題に直面することがよくあります（国際アルツハイマー病協会、2022年）。

「高齢者が尊厳と社会とのつながりを維持するためには、意識を高め、早期に支援することが重要です。」

シンガポールにおける認知症

先日、シンガポール認知症協会は、シンガポールYMCAで開催されたシンガポールアルファチャプターワイズメンズクラブの公開講演会で、地域における認知症の現状について講演を行いました。60歳以上の成人の11人に1人が認知症を患っており、この数は2030年までに15万2000人を超える見込みです（シンガポール認知症協会、2026年）。同報告書は、認知症患者とその家族が病状を管理していく上で、早期診断、教育、そして地域社会の支援がいかに重要であることを強調しました。

シンガポール認知症協会は、認知機能と身体機能の向上を目的とした芸術、音楽、運動、回想法などを提供するデイケアセンターをはじめとする幅広いプログラムを提供しています。介護者支援も重視しており、研修、ピアネットワーク、セルフケアを促進するための実践的なスキルを提供しています。CARAアプリなどのデジタルツールは、家族を島内800ヶ所以上の安全な場所や各種リソースに繋ぎ、いつでも支援を受けられるようにしています。診断後支援プログラムは、診断後の最初の数か月間、家族がケアの計画を立て、生活の質を維持できるようサポートします。

世界的な教訓と地域社会の行動

シンガポールの事例は、世界的なベストプラクティスを反映しています。地域社会との連携、教育、そして実践的な支援を組み合わせることで、認知症を抱える人々にとってより包摂的な環境が生まれます。運動、芸術活動、社交クラブ、ボランティア活動など、精神を刺激し、社会的な交流を促し、身体の健康を維持する活動は不可欠です。

YMI会員ができること

YMIの会員は、認知症を抱える高齢者を支援する上で重要な役割を果たすことができます。地域のプログラムでボランティア活動をしたり、地域社会で認知症への理解を広める活動を行ったり、高齢者の包摂性、社会参加、尊厳を促進する取り組みを支援したりしましょう。高齢者センターでの手伝いや、認知症に配慮した活動に関する情報共有など、小さな努力でも大きな違いを生み出すことができます。

YMIのメンバーは、グローバルな知識と地域に根ざした取り組みを組み合わせることで、認知症の高齢者が活動的で、社会とのつながりを保ち、尊重されるコミュニティの創造に貢献できます。



主の祈りをもう一度！

ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任

私はデンマークの教会雑誌から、以下の主の祈りを改編しました。

「天にまします我らの父よ…」

「はい？」

「邪魔しないでください。祈っているんですから。」

「でも、あなたが私を呼んだのじゃないですか。」

「あなたを呼んだ？いいえ、していません。私は祈っています。天にまします我らの父よ、…」

「またやりましたね！」

「何をしたって？」

「私を呼んで、『天にまします我らの父よ』って言いいましたね。ほら、ここにいますよ。何か考えていることがあるのですか？」

「でも、別に意味はなかったのです。ただ、その日の祈りを捧げていただけなんです。私は、いつも主の祈りを唱えます。そうすると、まるで自分の義務を果たしたかのように、いい気分になるんです。」

「わかった。続けて。」

「願わくはみ名をあげさせたまえ…」

「待って。どういう意味ですか？」

「それはつまり…つまり…ああ、どういう意味か分かりません。どうして分かるっていうのですか？ただの祈りの一部なのです。ところで、どういう意味ですか？」

「それは、尊敬される、聖なる、素晴らしいという意味です。」

「ああ、なるほど。今まで『聖なる』ってどういう意味か、真剣に考えたことはありませんでした。」「御国を来たらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ…」

「本当にそう思っていますか？」

「もちろん。なぜダメなのですか？」

「それについてどうするつもりですか？」

「何もしません。ただ、天国のように、ここでもすべてがきちんと管理されていればいいと思うだけです。」

「私は、あなたを支配しているのでしょうか？」

「ええ、私は教会に行きます。」

「私が聞いたかったのはそういうことじゃありませんいけません。あなたの欲望はどうですか？気分はどうですか？そこに問題がありますね。それに、お金の使い方も。全部自分のために使ってますね。それに、どんな本を読んでいますか？」

「私をいじめないでください。私は、大多数の人と何ら変わりありません。」

「申し訳ありません。あなたは、私の意志が成就するように祈ってくださっているのだと思っていました。もしそれが実現するなら、まずはそれを願う人から始めなければなりません。例えば、あなたのように。」

「ええと…そうですね。確かにいくつか問題はありますね。そう言われてみれば、他にもいくつか挙げられるかもしれません。」

「私もできます。」

「今まであまり考えたことはなかったけれど、そういうものをいくつか手放したい。本当の意味で自由になりたいのです。」

「よし。これで何かが起こり始めました。君と私、力を合わせなければならない。きっと勝利を手にすると思信しています。君を誇りに思います。」

「我らの日用の糧を、今日も与えたまえ…」

「パンそのものはなくても大丈夫です。もう十分お持ちでしょうから。」

「ちょっと待ってください！これは一体どういうことですか？私は、宗教的な義務を果たそうとしているのに、邪魔をして私の欠点を指摘するなんて！」

「祈ることで、あなたは変わるかもしれない。私が伝えたいのはそういうことです。」